

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	揖斐川町立坂内小中学校		
実 施 期 間	平成26年11月3日（月）		
実 施 概 要	・地区文化祭参加（太鼓演奏と坂内の歴史の創作劇、発表）		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input type="checkbox"/> 自然 <input checked="" type="checkbox"/> 歴史 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input checked="" type="checkbox"/> 産業 <input type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input type="checkbox"/> 授業公開 <input checked="" type="checkbox"/> 成果発表 <input type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	15 人	計 75 人
	地域関係者	60 人	
実 施 状 況	<p>本校のふるさと教育では、「ふるさと坂内に愛着をもち、ふるさとに主体的にかかわろうとする子ども達を育む」ことをねらいとしている。ここでは、小学校と中学校との連携を大切にした取組を行っている。</p> <p>小学校では、炭焼きや稲作、間伐など地域の伝統的な産業を体感する豊かな体験活動を主な取組としている。</p> <p>中学校では、小学校での豊かな体験をもとに、地域に主体的にかかわる活動を主な取組としている。具体的には、地域にかかわる文化を創り上げる活動である。地域の伝統芸能である夜叉龍太鼓や坂内の歴史の創作劇などを、総合的な学習の時間を活用し、創り上げてきた。</p> <p>1. 夜叉龍太鼓の取組（小学校、中学校合同の取組）  4月に入ってから、小学校と中学校が合同で、総合的な学習の時間を使い、太鼓の練習を始めた。太鼓の種類毎にグループとなり、中学生が小学生に教えながら練習を進めていく。中学生は、自分たちが先輩から教わったコツやポイントを小学生に伝えながら、ひとつのものを創り上げていった。  この練習の成果を、11月3日（月）に地域の行事として行われる坂内文化祭において披露した。</p> <p>2. 坂内の歴史の創作劇（中学校の取組）  上記太鼓の取組と平行させて取り組むのが、坂内の歴史の創作劇である。本校がある坂内地区は、明治時代中期に、村の多くの人々が豊かな生活を求め、北海道へ移住していったという歴史をもつ。移住された方々は、十勝坂内会という組織をつくり、今でも坂内地区との絆を保っている。その絆を子どもたちにも深めてもらいたいという地区の方の願いから、十勝坂内会との交流を深めるための中学生による北海道研修が隔年で行われてきた。昨年度は、その前年度の北海道研修で、十勝坂内会の方から、「自分たちが北海道へ渡った後の坂内の様子が知りたい。」という願いを伝えられたため、昭和30年頃からの坂内の様子を劇に表わした。  今年度は、北海道研修の年だったため、改めて北海道へ渡ったころの坂内村の様子や開拓時の苦労を知りたいと思い、1学期から総合的な学習の時間を中心に、地域の方への聞き取りや文書資料の読み込みなどを通して調べてきた。さらに、8月の北海道研修において、十勝坂内会の方との交流を通して、実際に開拓した場所を訪れたり子孫の方から当時の苦労を聞き取ったりすることで、より深まりのある学習を行った。  2学期から、それまで学習したことをもとに劇のシナリオをつくり、文化祭に向けて練習を行った。  そして、創り上げた劇を、11月3日の坂内文化祭において、地域の方へ披露した。</p>		

○子どもたちがこれだけ主体的に学習に取り組み、深まりのある劇を創り上げることができたのは、次のことが要因であると考える。

① 単年度ではなく、継続した学習であったこと。

昨年度は、開拓後も坂内に残った人々の生活を調べ、劇に表わした。そして、今年度は、北海道開拓の苦しみと喜びである。このように、子どもたちは単年度ではなく、何年もふるさと坂内の歴史を調べ、毎年劇に表わし、地域の方へ披露してきた。こうした積み上げにより、地域の歴史を我が事としてとらえ、主体的に学習に取り組むことができたのだと考える。

② 地域（十勝坂内会）、保護者とのかかわりをもたせた学習であったこと

開拓の苦しみと喜びを調べるために、地域の方や保護者からの聞き取りを中心に行った。中学生は、地域のお年寄り訪問を毎年行っているが、その際にも北海道開拓や当時の坂内の苦労を聞き取ってきた。北海道研修へ行く際も、事前に何を学んでくるのかを明確にしたため、主体的に学びとることができた。人とかかわりながら学んでいくことにより、当時の人々の苦労や喜びを感じ取ることができたのだと考える。

#### 成果及び課題

○劇を見終えた地域・保護者の方からの感想を紹介する。

地域の方からの感想

「思わず涙があふれてきました。当時の坂内村の人々の苦しい生活や開拓を成し遂げた喜びを、子どもたちがあれだけ熱演してくれて、胸がいっぱいになりました。この坂内の歴史を、子どもたちが劇に表わしてくれて、こんなに幸せなことはありません。開拓の歴史を、いつまでも引き継いでいってほしいです。」

保護者からの感想

「私の父の親が実際に北海道へ開拓に行きました。わが子はその話をたびたび聞いていましたが、今までは、遠い出来事として聞いただけでしょう。しかし、今回の北海道研修で、十勝坂内会の方と交流したり、我が家の子孫の方が、子どもにわざわざ会いに来てくれたりしたことで、先祖と子孫との間の流れを感じ、だからこそ、今の自分があるということを感じ取ってくれたようです。感じ取ったものが強かったから、それを演技に表わすことができたと思います。見ていて、それを強く感じました。わが子ながら、迫真にせまったいい演技でした。」

●今後、子どもの数はますます減っていく。そうした状況の中で、どのように太鼓演奏や創作劇を続けていくかが厳しい課題としてある。